

経済・金融フラッシュ

No.07-099 2007/11/6

米 10 月ISM指数は、製造業は続落の一方、非製造業は回復

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail:doi_hara@nli-research.co.jp

1、製造業では景気減速を反映して続落、製造業の分かれ目である 50 に接近

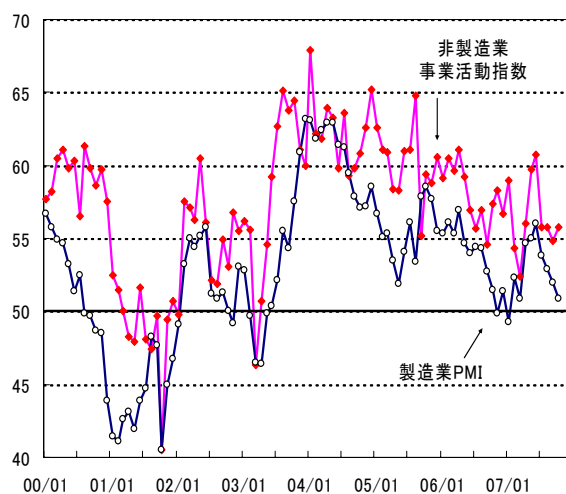
企業のセンチメントを示すISM（米供給管理協会）指数は、11月1日発表の10月製造業指数（PMI）が50.9（9月は52.0）と、4ヵ月連続での低下となった。市場予想（51.5程度）を下回り、3月（50.9）以来、7ヵ月ぶりの低水準となる。同指数は本年1月に49.3と製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる50を下回ったものの、その後6月には56.0まで回復し、再び低下の動きを続けていた。ただし、2月以降は9ヵ月連続で50を上回っており、製造業の拡大がなお持続していることを示した。

一方、5日に発表された10月のISM非製造業事業活動指数は55.8と9月（54.8）から上昇、前月からの低下を見込んでいた市場予想（54.0）を上回り、7・8月と同水準（55.8）を回復した。今回で55ヵ月連続50を上回ったこととなる。

10月末開催のFOMCでは、8月の金融市場混乱の実体経済への波及防止を目的に9月に続いて連月の利下げが実施されるなど、サブプライム問題の拡大による実体経済への影響が注目されている。この点、10月ISM指数に見られる企業のセンチメントは、製造業が続落する一方、非製造業が回復し、対照的な動きを見せた。

しかし、いずれも景況感の分かれ目である50を上回り、内訳指数別でも、輸出が急伸する中、新規受注や雇用が50台で底堅い推移を続けるなど共通した動きを見せ、急に失速する状況を呈しているわけではない。今後、景気の先行きを見る上では、4ヵ月連続の低下を見せ、50に接近してきた製造業指数の動向に注目したい。また、消費を中心に実体経済への影響が強まると予想される中、雇用や輸出指数の強めの動きにも留意しておきたい。

（図表1） ISM指数の推移



（資料） Institute for Supply Management、図表2・3も同じ。

(各指数の内訳)

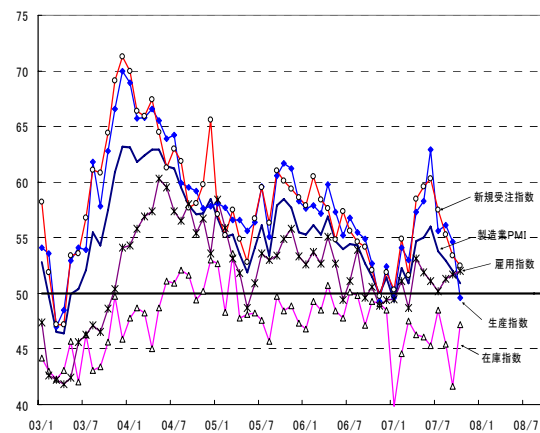
2、10月ISM製造業内訳では、生産・新規受注が低下

ISM製造業指数のうち、各主要指数別に10月の動きを見ると、新規受注指数が52.5(前月53.4)、生産指数が49.6(前月54.6)と低下し、製造業指数(PMI)を押し下げている。半面、在庫指数が47.2(前月41.6)と急伸、雇用指数が52.0(前月51.7)と緩やかながら3ヵ月連続の上昇となった。

10月の特徴的な動きとしては、受注・生産等、製造業の活動が減速を示し、これによって在庫が増えた状況が窺える。特に、生産指数は前月差が5.0と大きく低下し、本年1月(49.6)以来の低水準となり、FRBの鉱工業生産指数の増減の分かれ目となる49.8を割り込んだ。受注の低下や在庫増からしばらく生産面での停滞の可能性がある。

一方、雇用指数は3ヵ月連続の上昇と底堅い。業種別では石油関連、衣料品、電子機器、食品、製紙他で増加が見られた。雇用の堅調は10月公表のFRBのベージュブックでも指摘されていた。ただし、今後も、生産・受注面での停滞が続くのであれば、雇用にも影響が及ぶ恐れもあり、その動向が注目されよう。

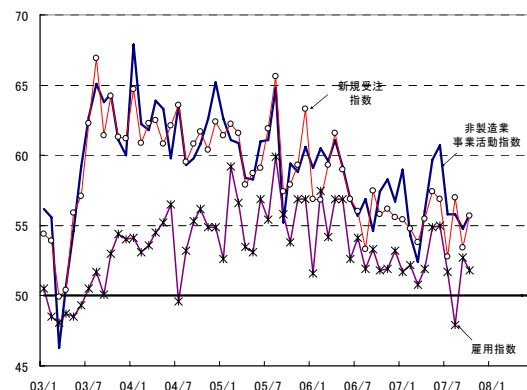
(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移



3、非製造業では新規受注・輸出指数上昇の一方、雇用指数が低下

ISM非製造業指数のうち、10月の事業活動指数以外の動きを見ると、特に、新規輸出受注56.0(前月50.0)、輸入55.5(前月51.0)、等が大きく上昇し、新規受注も55.7(前月53.4)と上昇を見せた。半面、雇用指数51.8(前月52.7)、仕入れ価格63.5(前月66.1)、在庫指数49.5(前月50.0)等、多くの指数が低下を見せた。雇用指数は8月に47.9と50を割り込み2002年12月以来の低水準となったが、その後は50を上回る推移を見せている。雇用増の業種には、ヘルスケアを始め、運輸・倉庫、小売、情報に加え、不動産、金融・保険が含まれている。2日発表の10月雇用統計ほどには、サービス業雇用の強さが窺われなかったが、緩やかながら雇用拡大が示された形となっている。

(図表3) ISM非製造業各指数の推移



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)